

2601

細民塗炭の苦

昭和十五年二月五日



「どうぞお米を五合
高買つて下さい
よせんか……
駄目ですか？」

白米

新炭

「この炭はみんな
豫約済みだよ」

「すみませんが
このバケツに
半分高買つて
下さいませんか」



2602

阿部内閣総辞職大命米内

昭和十五年一月十四日



米内

阿部



2603

静岡大火

焼失家屋
五千七百戸
昭和十五年一月十五日



2604

米内内閣成る

昭和十五年一月十六日



凸坊

「米内さんは
好きだが、
嫌いな奴もある。」



凹坊

「それで中

阿部内閣

よりはいーや。

請	輸	支	司	厚	拓	外	内	敏	逋	農	商	大	海	陸	総
務	長	部	法	生	務	務	務	道	信	林	工	藏	軍	軍	理
務	石	松	木	吉	小	有	児	松	勝	島	藤	櫻	吉	畑	米
務	渡	浦	村	田	磯	田	玉	野	鶴	田	原	内	田	田	内
務	三	次	尚	国	八	秀	雄	平	憲	俊	銀	幸	善	俊	光
務	郎	郎	達	茂	昭	郎	雄	平	憲	雄	次	雄	吾	六	政
務	五	六	六	五	六	五	六	五	六	六	七	六	五	六	六
務	二	九	二	六	一	七	五	八	二	四	二	一	六	二	一

2605

浅間丸事件

昭和十五年一月二十一日



英艦

獨この賊鬼めら
て人銭らず
さらって行くぞ
グツグツぬかすこ
これだ

浅間丸

仕方がない

勝手は

しやがれ



2606

日本の表裏

昭和十五年一月三十日



表 火の地獄

旱魃五旬
黄塵万丈
祝融跳梁
病魔跋扈
米穀不實
億民困憊

裏 雪の地獄

積雪十丈
交通杜絕
薪炭不給
黔首悲鳴



2607

齋藤隆夫舌禍

昭和十五年二月二日

齋藤

内は良民を数き、外は醜敵
 数曲たる幾、百億の国策と
 数十萬の生靈を犠牲と
 して得る所果して幾何
 ぞ、願はく相前の辨明を
 聴かん。

陸相



總理

2608

東西戦争競べ

昭和十五年二月六日



日本

「宣戦はしちいから、
戦役であくて事変だ、
いや聖戦だぞ、
八紘一宇だぞ、
サー来い、
蔣介石は
相手に
しちい
ぞ、



獨英

「宣戦はしたたが、
旧式の戦争はしちい、
頭腦と腹藝の
競争さ、
ペラッと来れバ
チキンと出
る奴さ、



2609

電力節約強制

昭和十五年二月十日

燭暗數行文字乱
夜深三更電爐凍



2610

小官吏争之大會社に奔る

昭和十五年二月十二日



2611

津田左右吉筆禍

昭和十五年二月二十日



津田

古事記

日本書紀ハ

悉く架空の

妄説なり、

神武以降曆代の

詔敕は皆後世の

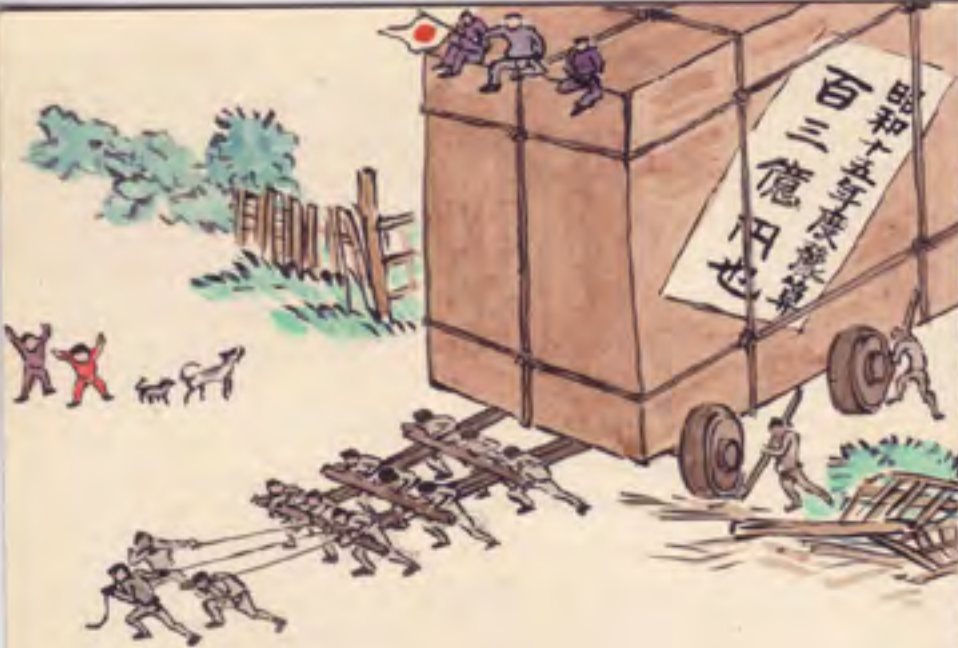
捏造ふり、



2612

百三億豫算通過

昭和十五年二月二十二日



2613

敵は本能寺に在り

昭和十五年三月三日



ソ聯

獨に
結び
戦ふは日本
を潰さん
が爲である

日
支那を
ヤツケる
はソ聯を
叩きつけん
が爲である

抗日は
金儲けの
爲であつた
のである

支



2614

齋藤隆夫除名さる

昭和十五年三月七日



「ヤレ、
これでお前
も大名聲
を揚げたと
いふものさ。」



齋藤

「あやかまじう。」

左様あり、又年末に會はうぜ。



ソ芬構和

ソ聯芬国のカレリア地峡全域の
ラドガ湖の南岸并に東岸のラド
湾内の数島嶼のメルキヤルグイの東岸
地域のリベチズレドリー両半島の一部を取る。

ソ聯「もう喧嘩は止めるよ、
その代りこれを貰つて
行くよ。」



芬
「アッ！」

それ持つて行くの？
ずるいや。



2616

汪精衛颯爽として南京に入る

昭和十五年三月十九日



汪
うまく
行つた
様だ、
これから
日本を籠絡
するの大へんだ、



2617

支那新政權の勢力圏

昭和十五年三月三十日



2619

米の増長我慢

昭和十五年三月三十一日



米

「毛虫の日本と
蛆虫の汪とて
こしらへた
新政權あん
か、俺の鼻
いきで朝食
前に吹き飛ば
してやる。
俺が金をかけて
育てゝやつた
蔣みは指でも
ささせたい。」

米

蔣

「毛虫の日本と
蛆虫の汪とて
こしらへた
新政權あん
か、俺の鼻
いきで朝食
前に吹き飛ば
してやる。
俺が金をかけて
育てゝやつた
蔣みは指でも
ささせたい。」

汪

日本





2620

獨乙ノ抹を保護領とし、
那威首都オスローを占領す

昭和十五年四月
十日



2621

獨英大に那威近海に戦ふ

昭和十五年四月十二日



2622

醜蟲蠢・春陽來

昭和十五年四月十七日

世界大
戦争開
始



2623

日本の立場

昭和十五年四月二十日



「日本の退路を
絶て困らせて
やろう」



「ここまで
お出で
甘酒進上」

2624

北歐の戦況

昭和十四年四月二十二日



親の心子知らず
子の心親知らず

昭和十五年四月廿四日



大和屋の小店員

『近所の噂では「大和屋の身代もやがて潰れそうだが、あの嫌はれ者を助ける人はおいだろう。隣の中華亭との喧嘩も、結局大和屋が負けて、散々お目にあはされるに違ひない」と言つてゐます。私は心配でたまりません、どうか本當のことを聴かせて下さい。』

大和屋の総支配人

『その心配は無用だよ。近所の噂は皆嘘だよ。』

中華亭との

いきさつも

近い中に

托く收まる。

何事もこの四月に

あること、お前方はそんな

心配をせずと、仕事の方に身を入れて、

大和屋の爲に働らなくてはなりませんぞ。』



2626

阿部大使汪と會談

昭和十五年四月二十七日



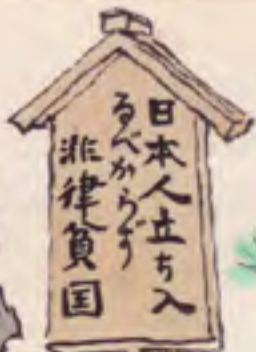
2627

咄、這個無禮漢

昭和十五年五月二日



比律賓
「よく眼を
あけて、その
立札を見
ろ。」



日本
「ぬ、よくも
人を馬鹿に
したか。」



密書

汪兆銘から
蒋介石へ

昭和十五年五月七日



君も随分と
遠頃は元氣も恢復した
が何よりだ。僕も不
健康で愉快に動いて居る。

から、君はどこ迄も抗日一点
張りで行くがよい。僕は表面
親目で行く。夢想の通り日本の
お目出たき加減はお話するが
ぬ。何でも僕の思ふ通り日本
ものた。モ一三年もたては明瞭な
もへりくは疲れることは明瞭な
からい。汗を見せられて日本
と蹴飛ばし、失地は全部取り
返へし、君と中国を山分けし
て仲あうまい汁を吸はう
ではあいか。

君も遠者でモ一三年辛抱
したあ。物資が缺乏したら
僕が才覚してやる法もある。
夫より、曲新の才覚

精衛

2629

世界の英雄

米紙投票
の成績

昭和十五年五月九日



ムッソリーニ

スターリン

ヒトラー

蒋介石

チェンバレン

スターリン

ムッソリーニ

ヒトラー

蒋介石

チェンバレン

米、日、佛、以下
無票

五二〇八〇〇
一一二



2630

獨和白に侵入す

昭和十五年五月十一日



2631

電光石火

獨軍、和、白
を蹂躪す

昭和十五年五月十六日



和蘭

ロッテルダム

海牙

アントワープ

ブルッセル

セダン

リエージュ

白耳義

佛蘭西

和蘭女皇

ロンドンに亡命

ルクセンブルグ大女公

パリに逃亡

和蘭軍降伏

セダン占領

マシノ融突破

英佛震駭

米呆然



獨

2632

獨軍巴里に迫る

昭和十五年五月十八日

相距ること
百二十軒

大

佛



2633

双葉山の顛落

昭和十五年五月二十一日



双葉山四たび
黒星を勝ち
得て休場す



2634

蜚は、當に天下を驚かすべし

昭和十五年五月二十二日



「早く
立つて呉
れよ」

「伊
三年不鳴不蜚
蜚當驚天下」

「伊の野郎め
挺でも動かまい、
早く加勢
して呉れ」

「ぞんあに
あわてるふよ」



2636

東

日

ソ聯

米



どっちが勝つか
昭和十五年五月二十四日

西

独

佛

英

大衆



2637

秘露日本移民を侮辱シ
四十年來の激震は襲はる
昭和十五年五月二十四日



2638

白耳義國王獨逸に降る

昭和十五年五月二十九日



白民

「意気地あしの

国王め、

コッチから勘當

してやる。



白王

「軍總司令の資格で

降参しまあす、

どうぞ穩便みか取斗

ひ下さい。



独

「宜しい、

汝の国と

汝の王位

は奪すはあいが、

南阿の俺の

失地は返へして

貰ふぞ。



2639

物資缺乏物價暴騰

昭和十五年六月五日

スワ入りモーター車
一着 二百円より

小兒靴 十円

スワ入り背廣夏物
一着 百五十円より

ゴム長 五十円

登山靴 七十円

かみしぐれ
一ツ 二十五円

うなぎ佃煮
百条 二円五十銭

鰯製鮓 三玉オサ
一初 五十銭

甘栗
六ツ 十銭

スワキミソク
一ツ 一円二十銭

五宝柑
一ツ 五十銭

水割り酒
一合 五十銭



2640

人心漸く荒む

昭和十五年六月七日



職工

「おは？貯蓄をしろ？
ペラペラの千円ボツの月給位
朝飯前に使つて見せる。」



官吏

「こんど世の中は働らく気があれん。果報は寝て待つに限る。」



野人

「今の中はウント儲けあくなや。あそこ野とあれ山とあれだ。」



インテリ

「日本に大英雄が出ない限り、国運の好轉は望めない。前途を思ふと、何をあつちのよいやにある。」



2641

伊太利英佛に宣戦す

昭和十五年六月十日



2642

鼎の沸くが如し
全世界修羅

昭和十五年六月十二日



2643

獨軍。パリに入城す

昭和十五年六月十四日



米

英米

「ゴラ獨乙、待て、これから

支度して佛を助けに出

かけるから待て。

佛、泣かずに待て居ろ、

いまに獨を叩き殺して

やるあら。

佛

「英米！早く

助けて呉れ

あいと殺さ

れるよ。

獨

「たまれ

老いばれ！

二十五年の怨を

晴す今日の仇討、

邪魔ひろぐと

ふで斬りだぞ。



英

2644

ソ聯バルチック小國をつぶす

昭和十五年六月十七日



ソ聯
獨乙のろ馬
を咬み殺して
める間、

バルチックの
蟲けらを
潰して置かう。



佛國獨
逸に降
伏す
昭和十五年
六月十七日

エストニア

ラトヴィア

リトワニア

2645

山嶽の精

昭和十五年六月十八日



谷川岳（一九七八米）

「一気」に五人を
平らげた。

中は平田伯の
四男恭助も
居つた。

妙義山（二一〇〇米）

「私も一気」に

二人を平らげ
ました。

2646

迅雷諸官衙を燬く市内落雷

昭和十五年六月二十日午後九時五十分
同日午前〇時四十分鎮火

「空王爆」の实地演習だ。
この辺のバラックが丁度いい。



- 一、大土庫坪
二、大土庫坪
三、大土庫坪
四、大土庫坪
五、大土庫坪
六、大土庫坪
七、大土庫坪
八、大土庫坪
九、大土庫坪
十、大土庫坪
十一、大土庫坪
十二、大土庫坪
十三、大土庫坪
十四、大土庫坪

2647

あんまりびどい

昭和十五年六月二十日



独

佛の海軍全部を没収する。

佛領北アフリカ丈けは

呉れてやるが、

その他のアラ

リカ領地ハ

貰ふぞ。

佛領印

度支那

を始め、

東洋の佛

領は一切

取り上

げる。

伊

「ボレオンのカッ拂つて行

つた美術品を全部返へせ。

コルシカ、タニス、ゲブチをおこせ。

フランス本国の地中海沿岸地帯を

引き渡せ。



佛

「ボナンデモ、
そりやあんまり
ひどい。」

2648

ニッポニーの宣告

昭和十五年六月二十二日



獨

一、アルサス、ローレーヌ
兩州を割譲せよ。

二、独伊両軍は對英
戦争を終了す。

まで

フランス全
土を保障

占領する。

三、一定の期限内に

軍事資料、金塊、

外國通貨、豫

備金、石炭、

石油その他の

燃料貯藏物一切

を独伊兩國に引渡せよ。

佛

ハ、何でもおかしやる通りは服従しなす
から、命斗りはお助け下さい。



2649

諸国流浪政府定宿ろんどん屋

昭和十五年六月二十七日



2650

援蔣路遮断

昭和十五年六月二十八日



圖太いソ聯

太いソ聯 ルーマニアを奪取して
ベッサラビア及ブコヴィナを奪ひ
更にルテニアを窺ふ



黑海

羅

ベツサラヴィア

千〇

モルタウ

尼

亞

トランシルヴァニア

クラウゼンブルグ

小ワラハイ

大ワラハイ

ブレス

トブルサア

7245

アリガルド

逸獨

ルテニア

アユウナ

人口ウグキア

匈牙利

ユレゴスラヴィア

逝ける人

自昭和十五年四月一日
至同 六月三十日

昭和十五年六月三十日



間庭秀夫 五九

今井田清徳 五七

藤澤幾之輔 八三

上田貞次郎 六二

武田三郎 七九

ペテル・ベレンス 七二

伊藤萬太郎 七一

松本直亮 六五

川村徳太郎 七一

神田伯治 五二

宗哲 元五六

山谷徳治郎 七五

宮古啓三郎 七五

稲葉岩吉 六七

菅原恒寛 八二

中島徳藏 七七

鈴木梅四郎 七九

徳川家達 七八

渡邊千冬 六五

松村恒一郎 七七

田邊熊一 六七

板倉松太郎 七三

宮川香山 八三

羅振 五七五

中野寅次郎 七七

馬場孤蝶 七二

辻本満九

井深梶之助 八七

木田保吉 五七

鈴木喜三郎 七四

大瀧八郎 七三

近藤清治

鈴木與平 五八

堀光亀 六五

西村文太郎 五七

前澤成美 七五

諸井六郎 六九

吳建 五八

子

公

2653

東京市水源枯渇

昭和十五年七月一日



市民

「鼠の小便程の雨に頼つてばかり居る馬鹿な中
 困る。水遣ひの荒い七百万市民を満足させるな
 は村山、山口の池位みでは
 駄目だ。」

少あくども
 霞ヶ浦位ひ
 の恒久水源
 としての湖が
 必要だ。



2654

昨日は東、今日は西
昭和十五年
七月六日
佛・英に宣戦す



仏
俺の船
をあん
こわした
張り倒
すぞ

英
「その船を
独乙やる
こいふかり
たゝき潰し
たんだ」
腰抜けめ、
喧嘩あら来い



2655

贅澤品製造販賣禁止

昭和十五年七月六日



「困るわ、
何も買へな
いじゃないの。」



2656

ソ聯土耳其及びイランをゆるする
昭和十五年七月七日



ソ聯強要の地域

アフガニスタン

印度洋

オマン

イラン

イスマハン

テヘラン

カスピ海

カスピ海

カスピ海

カスピ海

サウジアラビア

イラク

シリア

シリア

シリア

アンカラ

アンカラ

地中海

エジプト

紅海

黒海

ソ聯

蘇

裏海



2657

傍若無人の米國

昭和十五年七月八日

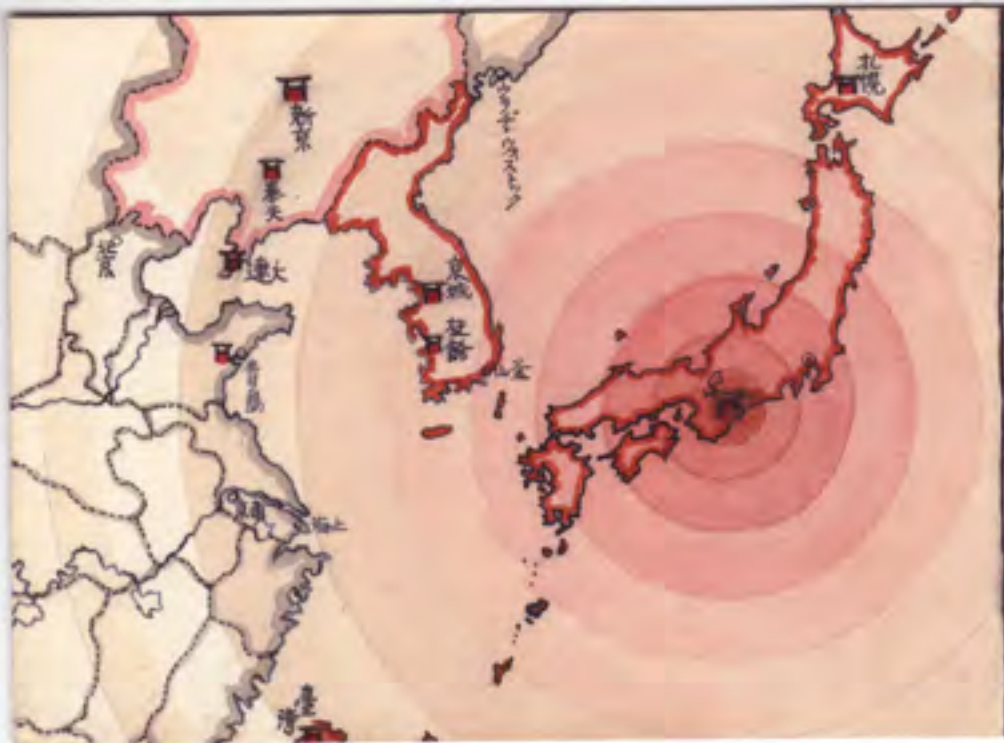


米
「西半球は俺の
縄張りな貴様
等も一切口を出さ
せぬ。
東半球の方へ
俺も口は出
さにやーあらん。」



2658

満洲国皇帝詔し建国廟を營み
天照皇大神と奉祀す
昭和十五年
七月十四日



2659

米内内閣総辞職大命近衛公降る

昭和十五年七月十七日

近衛

うそから出たまことしや。
今更ぬきまじしあらぬ。
のるかそるか
行く所まで
行つて見よう。



京わらへ
偉哉公爵
善哉近衛
惜哉文磨
難哉総理
六尺軀長
三寸舌短
一片胆小
千鈞任重



御意
此の通り
世界の
大勢は
此の如
きなり
と云ふ
こと
なり

近衛内閣成る

昭和十五年七月二十二日



國民の聲

今迄の盟廻し内閣とは違ふも。政治外交の
体制革新の爲の交迭だ。乾坤一擲の
大芝居とやるのだ。国の興亡浮沈を
賭してかゝるのだ。

内閣の連中、しつかりやれ。

星野直樹 四九

總理 近衛文磨 五〇

陸軍 東條英機 五七

海軍 吉田善吾 五六

外務 松岡洋右 六一

大藏 河田 五八

内務 安井 五一

司法 小林 一三

文部 橋田邦彦 五九

農林 石黒忠篤 五七

鐵道 村田省藏 六三

逓信 (文相兼任) |

厚生 (外相兼任) |

拓務 富田健治 四四

書記官長 村瀬直養 五一

少國民の聲

「横綱と三役がエライん
だね、アトはペレくた
面白いや。」



2661

英のスパイ網

昭和十五年七月三十日
 (英のスパイ逮捕されて自殺す)



2662

英の日本人不法逮捕

昭和十五年八月六日



香港

シンガポール

英
日本に對する
報復ではあ
一寸やつて見た
丈けのことさ。

ラングレン



倫敦

2663

英國封鎖（一九四〇年七月一日）

昭和十五年八月十日



		
中立國	独伊及びその占領地	封鎖使行国



2664

政黨崩潰

昭和十五年八月十五日



2665

贅沢品食料禁止

昭和十五年八月十七日



国民

ソレイヤ

モット オイシイ

オカシガ ホシイ

政府

坊やは

ポンポが てるいのよ、

よくあつたら、おいしい

お菓子をあけますよ。



2666

日本は才三流國

(外人の見た日本)

昭和十五年八月十九日



列国

「あのさまを何だ。
内閣監廻しの曲藝
夫れは専賣だか
内治も外交も
サバリ駄目じゃ
あいる結局人間
が居ないんだね。
流石は才
三流国文
けのことは
ある。」

⑧

ドレダ

まいった

⑨

「ドレダまだ

へこたれふいか



2667

日本人皆畸形(と外人は観る)

昭和十五年八月二十日

學者

實業家

政治家

軍人



2668

新體制

昭和十五年八月三十日



「新體制とは
何の事か？」

甲
「政党を始め無用のものは何でも潰してしまいい無駄のない政治を
することです」

乙
「貴賤尊卑の差別
的觀念を改め、國
民平等一致協力
の精神で國を
建てよう
といふのです」

丙
「全世界を相手
とする方針、覚悟
で政治、経済、軍
事、外交、文化を新
しく建て直すこと
です」

丁
「日本の既往の
歴史を破算
して、改めて新しい
歴史を造り出さ
ないといふのです」



2669

御用新聞

昭和十五年九月一日



小新聞

人馬鹿を
してめやる

政府

「ぞら、
モット声
を高く
くし
て」



大新聞社

政府の内治外交頻調に
奏効。一億国民政府に
信頼して安堵せよ。

2670

阿部大將

阿部と汪握手

昭和十五年九月二日

指相撲と
はあるまい



汪兆銘



2671

東亞文化協議會(北京)

昭和十五年九月四日



日本側(七十才)

「エンサイクロペディア・

シニカ」を編

纂すると

好いがね。

支那側(四十才)

「焉哉乎耶

こはドンナ

ものですか

か？」

ハハハ成る

程。併し

夫れは出来

ないでしやう。



2672

獨・英京倫敦を猛爆す

昭和十五年九月十二日



2673

日滿文化協議

(新京)

昭和十五年九月十三日



積極派

「熱河遺蹟

の保存事

業を促

進して

貰ひた

い。經費

の都合は何とか

あるだろう。

消極派

「至極御尤、

極力努力するが、

經費の都合で、

急速に

実現は

六ヶ敷い

と思ふ。

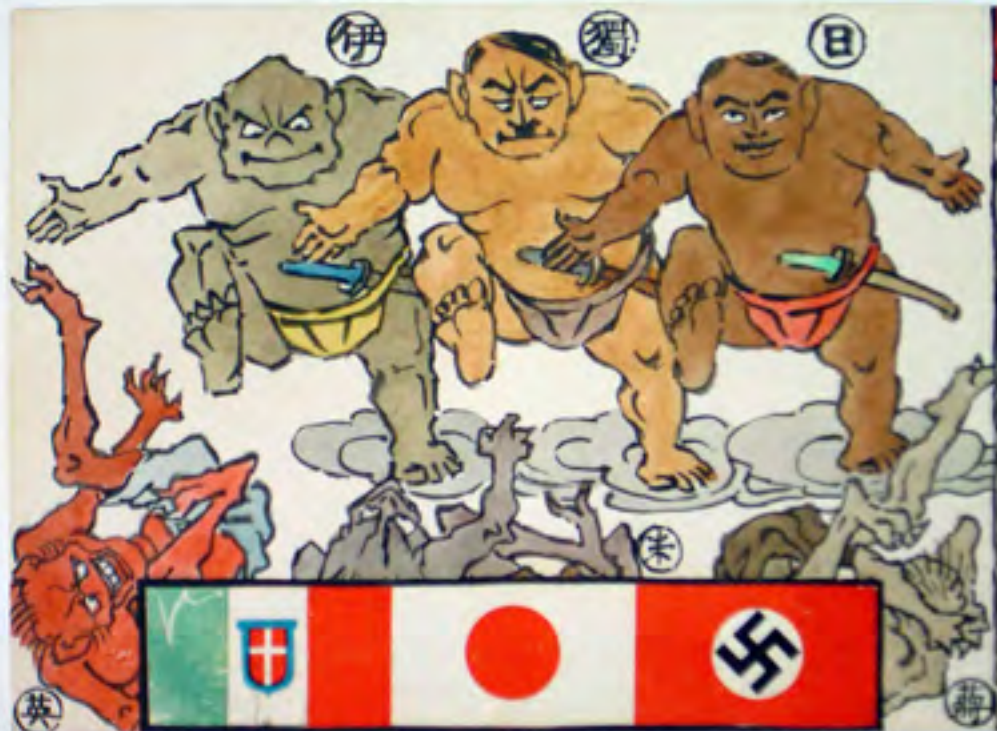


2674

皇軍佛印に進駐す

昭和十五年九月十九日





2675

日獨伊三國同盟成る

昭和十五年九月二十八日



遊ける人

自七月一日
至九月三日
昭和十五年九月三十日

杉原理太郎 五九	和田信丈 六五
葦津耕次郎 六三	市川松蔦 五五
曾我過家五九郎 六五	レオン・トロツキ 六二
財部静治 六〇	高山公通 七四
伊藤道海 六七	中村歌右衛門 七六
大島 清 五七	今泉国太郎
小柳司氣太 七一	平賀種樹 六七
松平頼和 七六	パウ・リ・ニコウ 八三
古莊幹郎 五九	北白川宮永久王
川地喜三郎 七四	麻生 久五〇
岡 不崩 七二	山屋 他人
天野喜之助 七六	男 紀 俊秀 七一
大森義太郎 四三	服部 漸 七六
馮玉祥	山口義勝 七六
坂井犀水 七一	渡邊勝三郎 六九
関 永爽 八三	石川貞吉 七二
細川温子 二三	浅野鹿輔 八二
釜屋六郎 七三	

2677

天皇陛下帝大行幸

帝大更生
の機到る

昭和十五年十月八日



あら有り難や
忝あや

よこゝまの道を
辿り来し我が
大學也

天つ日つぎの
すめらみことの御幸は
よりて

今よりそ正しき道に

向ふらぬ

あら有り難や

忝あや



2678

英米報復

昭和十五年十月九日



英

「ビルマ援將
ルート再
開だぞ。
驚いたか。」

日

「驚く
白んか。」

米

「呼吸の
ぬを止め
てやるぞ。
驚く
か。」



2679

夷のいゝ奴

昭和十五年十月十六日



（未）
アハハハハ
まあ待てよ

（英）
夷の
いゝ奴
だ



（英）
「日独伊三国
同盟の向ふを
張つて未英支
三国同盟を
やろうじや
おいが

2680

百七十五委員會一掃

昭和十五年十月二十日



「よくも三百近くの
委員會をこしらへた
ものだ。これで
少しは清々した」



2681

功果橋爆破

援蔭ビルマルト
断絶さる

昭和十五年十月二十五日



功果橋は瀬瀦
江に架する吊橋
なり、江の水面海拔
約四千五百尺、橋
の長さ約千五百尺、
橋下水面まで約千
尺位、江幅は約
四百尺に出入す。
激流怒號、人を
して毛髪を豎た
しむ。

2682

幻覺

昭和十五年十月二十五日



2683

戦争バルカンに波及す
伊希

昭和十五年十月二十九日



希

一寸の虫も
三分五厘位の
魂はあるよ。



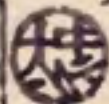
伊
ごめん
おさい
と言へ言
はあいとおくる
ぞ。

2684

米大統領選挙

ルーズベルトが当選
タフター惜敗

昭和十五年十一月七日



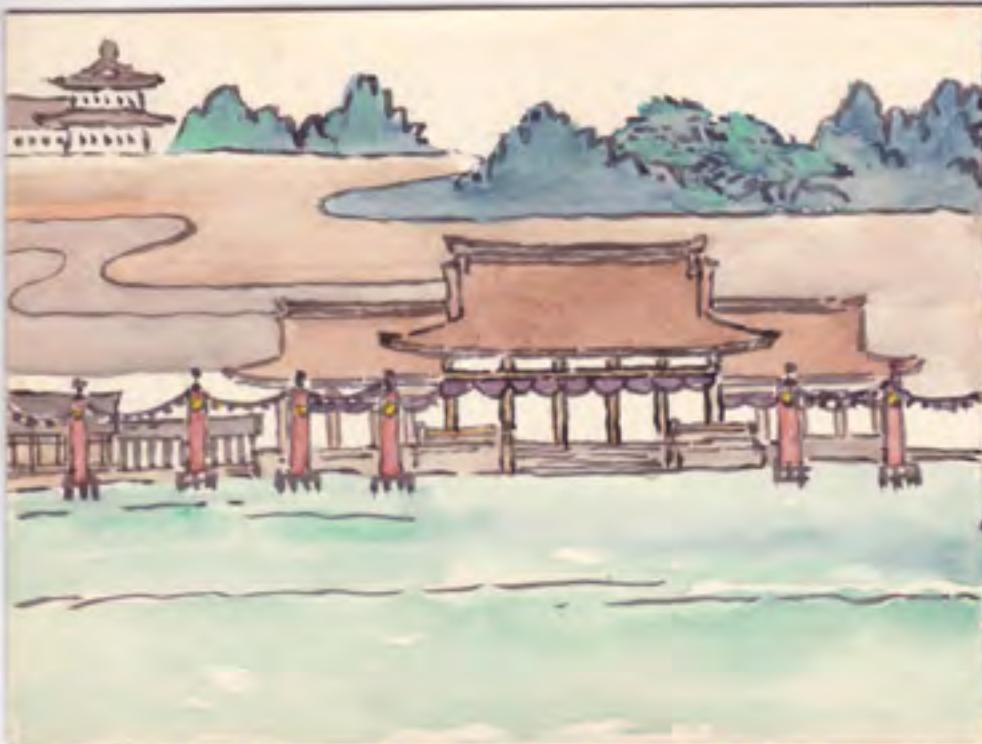
ウィルキー
勝負は時の
ウツ動費だ。
ア痛たとき、
罌片を
を隙
るとは
反則だ。

ルーズベルト
三戦三勝の
おま様だ、
龍車に向ふ
蛇蝎とは
うぬの事だ。

2685

紀元二千六百年式典

昭和十五年十一月十日



2686

羅馬尼烈震

ブルガレスト中心
死傷二万餘

昭和十五年十二月十日



烈震
地帯

2687

從位大勲位公爵西園寺公望薨す

昭和十五年十二月二十五日

知力、資力、體力で

九十二才の晩年まで生き延びた

聰明あきあき元老西園寺公望公



誅

機軸を以て三朝ノ制ニ準リ學問ヲカラニ百餘ノ儒
ニ據リ國語ニ著シ大業ヲ發シ社稷萬古ノ業ヲ成
テ經ヲ統ニ勸ヲ功セリ既ニ已ニ於テ江朝ニ對テ
心ヲ盡ニ智ヲ天下ノ道ヲ究テ以テ高麗ニ對テ
實ヒテ向シテ慰藉ノ情ヲ盡タル也然レテ中ノ
蓋タル元氣大業直ニス達ニ達ニテ乾坤何ノ
位ニ在リ乎

2688

獨逸外交戰の勝利

昭和十五年
十月廿五日

ルーマニア、ハンガリー、ブルガリア同盟に参加す



汪精衛国民政府主席とあり、
 蔣に和平を勧告す

昭和十五年十一月二十九日



汪 日本がウルサク
 頼みから知平を
 勧告したんだが、
 君が承知しない
 ことは分り切っているよ。



蔣
 又和平を
 告ぐ、アハ……。
 五億国民中、
 親日が一%以内、
 抗日が二十五%、
 あとは無関心の愚民しや。
 これでドーシテ和平が出来るか。
 今の所、日支戦闘方は、日本四分、支那六分だ、
 もう日本もヘタバルだらう。汪君、チト重慶を
 何かウマイ御馳走でも贈つて呉れたらドーだ。

2690

何處に活路を求めん

昭和十五年十二月二日



2691

四民平等(新體制の悲哀)

昭和十五年十二月二日



「マダ頭が高いぞ
モー少し叩き込
んでやる

「マダ腰が低いぞ
モー少し引きづり
上げてやる

「コリヤ
たまらん

「ア、苦しい
沢山
です



2692

蘭印の見たる日本

昭和十五年十二月三日



芳沢

「蘭印の
石油やゴム
を絶えて
やろう」



蘭印

「ア、今度は
茅沢といふ北蠻
が来るぞ。この
前の小林もりの
少しは手苦へが
ありそうだが
又一で鏡のに
してやろ」



2693

太平洋底之魔

昭和十五年十二月十日

静なる太平洋
に波瀾を起す
曲者は何？



暗鬼怪蟹、嶺刺難蛇、蝎、蛙蜈蚣蝎



2694

汎米航空路

昭和十五年十二月十七日



2695

新陳代謝

昭和十五年十二月十八日



現代

十而脫白

二十而懷

三十而躍

四十而功成

五十而氣餒

六十而落伍

七十而耄

八十而耄



2696

大政翼賛

昭和十五年十二月二十日



「ヤレ、
荷が重いの
に
路がわからぬ」

2697

我にこの貔貅あり

昭和十五年十二月二十九日



逝ける人

自十月一日
至十二月三十一日

昭和十五年十二月三十一日



濱口吉兵衛七三

富士川 游

伯 松平直亮七六

大海原重義九九

長島隆二

公 西園寺公望九三

兒玉右二六

矢田長之助七〇

牛島省三五

加藤木重教八四

小村雲岱五六

田中隆三七

田内三吉八五

竹本綴太夫六六

高成田忠風

加藤節見七七

土生 敦

岩井尊人

湯 爾 和 六

男

湯淺倉平六

左ンバレン 七一

千坂洋三郎

乾 新兵衛 五三

鈴木米次郎七三

馬場 應治八一

堀尾茂助八〇

2699

昭和十五年畧譜

昭和十五年十二月三十一日



官公辞令

関係工事

講

演

米沢善光寺建立願門 二條城保存委員囑託	早大理工科専門部講師囑託	東京工業大学講師囑託	東京書道学院学術顧問	早大勲績三十年以上表彰	富士山頂散燈籠	伊東家之墓室	山形中学校御遺影奉安殿	女子教育發祥記念碑	塚本清治君顕徳碑	笠被宮社之碑	皇正二十六年に際して富士諸君より(救護)	大工組合諸君に告ぐ	忠吳殿遺影奉告	日本精神と建築	日本精神と建築	日本文化の語	日本仙臺建築の語	京寶式に臨んで感想語	日本建築の本質	日本建築の本質	日本建築の語	大同石神寺院	成徳遺蹟談	建築より見たる支那文化(北京)	熱河遺蹟復興は就て	日本藝術論	東西藝術の本質の對比	日本藝術の興相	日本藝術の興相	日本人の性質	外人の見たる日本建築	建築に現れたる日本民族性
米沢市	京都市	東京工業大学	文部大臣	富士山頂	鶴見臨濟寺内	山形市	東京市茶の水	東京	薩摩	放送局	神田大工組合	忠吳殿新会	早大専門部	早大専門部	千代田高等女学校	芳草本願寺	工部省	熊本高等女学校	熊本高等女学校	熊本高等女学校	大阪外国語学校	長崎高等商業学校	山形中學校	勸業教育講演會	丁種協理會	三重高小學校	三重高小學校	三重高小學校	三重高小學校	三重高小學校	三重高小學校	
一月	一月	四月	三月	二月	三月	三月	七月	七月	十一月	一月	一月	一月	一月	二月	二月	三月	五月	六月	六月	六月	八月	八月	九月	九月	十月	十月	十月	十一月	十一月	十二月	十二月	十二月

2700

昭和辛巳

昭和十六年元日



神洲精氣
蜿蜒萬里
北吞山魑
赫赫皇威
茲迺辛巳

化為巨蛇
九回大地
南噬海魅
當壓蕃夷
肅慶新禧

(い顔到底)

